

## 第3回 第2部会における主な意見等

## 《参加について》

- 年齢や障害の有無等に関わらず、家庭や地域社会の中で、支え、支えられるという関係になっていくことが広い意味での参加と言えるのではないか。これを杉並の地域社会の中でどのように実現していくのかがポイント。
- 参加することにより、社会の中で自分の役割を持ち、それによってモチベーションを高めて自立につながっていくことが大事。
- 参加することにより、お互いを認め、役割を認め合うことで、自らの楽しみにつながるというように、楽しむことが参加の基本とも言える。
- 参加を考えると、「場所」、「手法」、「主体」の3つの側面がある。区においては、「場所」は充実してきており、「主体」についてもNPO活動等が広がっている。一方で、「手法」について、多くの区民の参加を促す上で、いかにアクセスしやすい情報が発信されているかという情報提供面での課題がある。
- こういう能力を持つ人にはこういう活躍の場がある、こういう障害を持つ方にはこのような社会貢献ができるなど、行政が出来る限り具体的な情報提供を行うなど、多くの区民の参加の後押しができるとうい。
- その人の能力や状況等に応じて地域社会に参加するような、区民参加型の杉並区をつかっていくために、行政として何をしたらよいのか。杉並区はいかにして区民が全面的に参加する自治体をつかっていくのか。
- 区民が楽しみながら参加をしていくような区を実現するために、行政は何をしたらよいか。あるいは、その場合に行政の役割というものはあるのか。

“参加”は第2部会の中心となるテーマであり、“参加”の方向性、それにおける区としての姿勢について、次回もう一度議論を行う。